

あすなろ

No.11 平成30年10月4日

学校評価報告

平成30年度学校評価の中間評価として、7月に、保護者の皆様、全校児童、職員にアンケート調査を実施しました。その目的は、4月からこれまでの教育活動を振り返り、改善すべきところは改善し、夏休み明け以降の教育活動をより充実したものにしていくための資料とするためです。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

裏面に集計結果を掲載してあります。保護者の皆様からは、全体的に高い評価をしていただき、22項目中13項目が90%、7項目が80%を超えました。しかし、現状に満足することなく、今後も子どもたちを第一にした教育活動に取り組んでいきたいと考えています。

評価結果がよかったこと

- ①授業で学習したことが分かる ④学びの実感 ⑤少人数指導
「授業で学習したことが分かる」と答えた児童が92.7%いました。保護者の評価も92.2%と高かったです。また、『授業中、「わかった」「できた」「もっとやってみたいこと」実感することがある』児童(90.7%)保護者(95.6%)と高い評価でした。算数の少人数指導についても、児童(90.8%)保護者(95%)と高い評価でした。少人数指導による個に応じたきめ細かい丁寧な指導を行なっていることが基礎的・基本的な学習内容の定着につながっていると考えられます。今後も更に日々の授業を充実させ、学力向上を目指していきます。
- ⑫自己肯定感 ⑭学校の先生は子どもを大切にしていると感じている。
「自分にはよいところがある」と答えた児童が86.8%でした。前年度12月の評価(84.1%)と比べても向上しました。全国的にみてもかなりよい数値です。「先生は子どもを大切にしていると感じている。」も児童(94.9%)、保護者(97.6%)と高い評価をしていただきました。今後も、子どもたち一人一人のよさを認め、個性を伸ばせるよう子どもたちとかわり、指導・支援していきます。
- ⑯仲良しタイム ペア活動 クラブ活動
「仲良しタイムを楽しみにしている」児童(91.2%)「ペア・クラブ活動でちがう学年の子どもと仲良くしている」児童(93.9%)、「心を育てるのに役立っている」保護者(98.4%)と高い評価でした。仲良しタイムやペア活動の時間を有効に使い、「相手の立場に立って考え行動できる子」の育成につなげていきます。

評価結果を受け、グランドデザインにある「めざす子どもの姿」の視点から、後期、重点的に力を入れて取り組んでいくこと

- ・考えてかかわり合う
②「授業中に自分の思いや考えを伝えている」
子どもたちの評価は77.4%でした。授業改善を通して、子どもたちが自分の考えや思いを伝え合いたいと思える学習課題を工夫し、話し合いの場(ペア対話、グループ対話)を設定して、子どもたちの「かかわり合う力」を伸ばしていきます。
- ・感じてかかわり合う
⑩「相手の立場になって考えたり行動したりすることができる」
子どもたちの評価は83.7%でした。思いやりの心を育むために、子ども同士でお互いを認め合う場面をつくったり、思いやりのある行動をした子どもを称揚したりしていきます。また、「道徳」の授業でも、本当の思いやりについて資料等を通じて道徳的価値観を深め、自分自身をふり返って今後の生き方を自ら考え、自己肯定感を高められるように、子どもたちの心を育てていきます。
- ・汗をかかわり合う
⑯朝運動に進んで取り組んでいる。(進んで体力づくりをしている)
子どもたちの評価は、83.8%でした。進んで取り組む子どもや目標をもって頑張っている子どもも大勢いますが、歩いている子どももいます。今まで以上に、体育委員会や6年生がリーダーとしての姿を発揮し、共に切磋琢磨し合い、汗をかかわり合う姿が見られるよう取り組んでいきます。

※長泉小学校は、長泉中学校、南小学校とともに「あいさつ運動協力校」の県の指定を受けて、「あいさつ」を広げる活動に取り組んでいます。後期も児童会を中心に全校体制で取り組んでいきます。